

No. 68号

発行：盲人情報文化センター-1994年11月15日

「音声訳」を考える（第19回）

録音の順序と各ポイント その6

11. 目次（前回の続き）

1. 目次の種類



目次はさまざまありますが、その形式は三種類（図参照）に分けられると思います。もちろんこの形式に当てはまらない複雑な目次もたくさんありますが、ここではこの三種類で考えます。頁については、大項目だけにあたり、その逆だったり、すべての項目に頁付けがあたり、なかったりとさまざまですが、今回は、すべて頁付けがあるということで統一しています。

項目に頁付けがあるか無いかで一定の変化もつきますが、それだけで区別しようとする少し複雑な目次では無理になってきます。

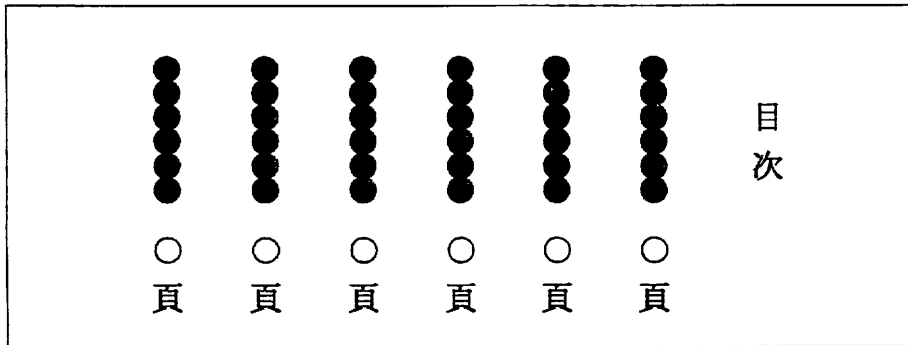
私たちが目次や本文中の項目を読んでいるときは、注意しようとしまいと、「大中小の関係」をその項目を読む前からすでに区別（認識）して読んでいます。音声訳する場合も、できるだけ同様の条件になるように配慮して読めれば一番よいわけです。

では、どんな場合に目次を配慮して読むのか、目次の形式別に検討してみましょう。

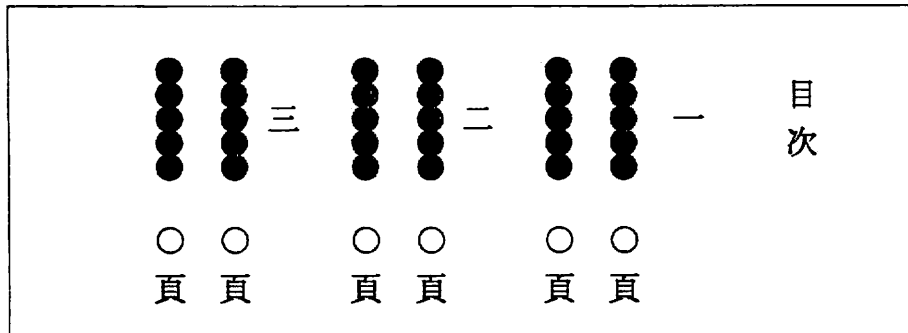
(a)はそのまま読んでも混乱はおきません。場合によっては数字をつけることもあるでしょう。小説や短編集、随筆などに多くあります。しかし、(b)と(c)はそのまま読むと、章の柱があるのかないのかがはっきりしません。(b)と(c)は、墨字でははっきり区別できますが、音声では非常に区別が困

【図1 目次の形式】

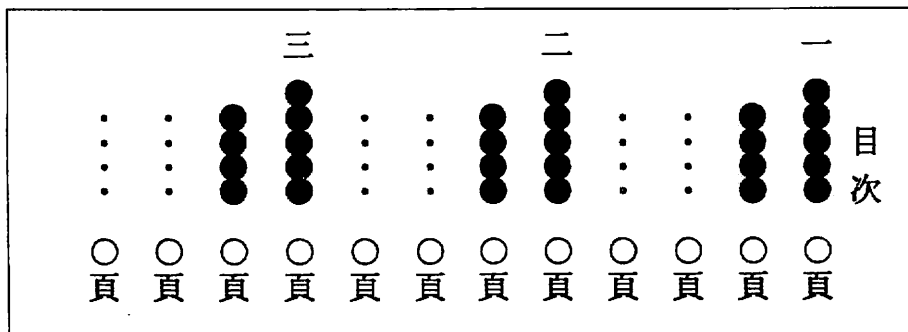
a. 単純な項目（小・中項目のないもの）



b. 項目が数字だけで分けてあるもの



c. 大、中、小の項目があるもの



難です。十分間をとればわかるのではといった意見もありますが、音声訳者が区別したつもりでも聞き手がそれを区別して聞き分けられるかどうかは別です。聞き手には目次についての予備知識はないわけですから、読み方や間の取り方だけで (b) と (c) の区別をわからせるのは困難といえるでしょう。どんな形式か何も考えなくてもちゃんとわかる読み方、これを工夫すること

が必要です。つまり、読者が10人いれば10人に伝わる読み方があればそれを工夫するということです。何人かでもわかればそれでいいではないかということは、さまざまな利用者が聞く「録音図書」としては配慮が足りないということになるでしょう。目次はその本の顔であり、内容全体の構成を知る最初の手がかりです。私達が、ぱらぱらとめくって内容を知ろうとするのと同様目次をしっかりと聞いて本の全体をつかまとうとする大切なところです。

では、(b)と(c)のような目次の場合、どのような配慮をして読むのか、なぜ必要なのかを検討していきましょう。

2. 目次を配慮して読む場合の例

bの例を配慮して読む場合、普通、図2のような処理をします。第1節、第2節と入れたり、部、章、節を使わない場合は、「1、1ノ1、1ノ2」などと数字を付けます。

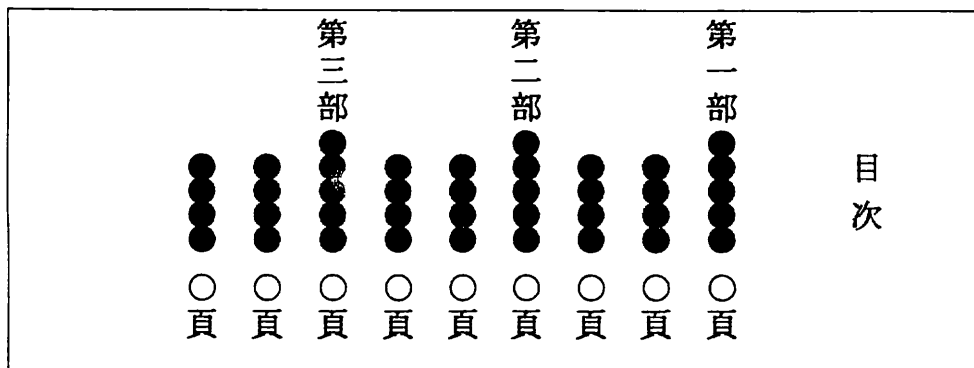
【図2】

第二節 ● ● ● ● ○ 頁	第一節 ● ● ● ● ○ 頁	第三部章	第二節 ● ● ● ● ○ 頁	第一節 ● ● ● ● ○ 頁	第二部章	第二節 ● ● ● ● ○ 頁	第一節 ● ● ● ● ○ 頁	第一部章	目次
-----------------------------------	-----------------------------------	------	-----------------------------------	-----------------------------------	------	-----------------------------------	-----------------------------------	------	----

三ノ二 ● ● ● ○ 頁	三ノ一 ● ● ● ○ 頁	三	二ノ二 ● ● ● ○ 頁	二ノ一 ● ● ● ○ 頁	二	一ノ二 ● ● ● ○ 頁	一ノ一 ● ● ● ○ 頁	一	目次
------------------------------	------------------------------	---	------------------------------	------------------------------	---	------------------------------	------------------------------	---	----

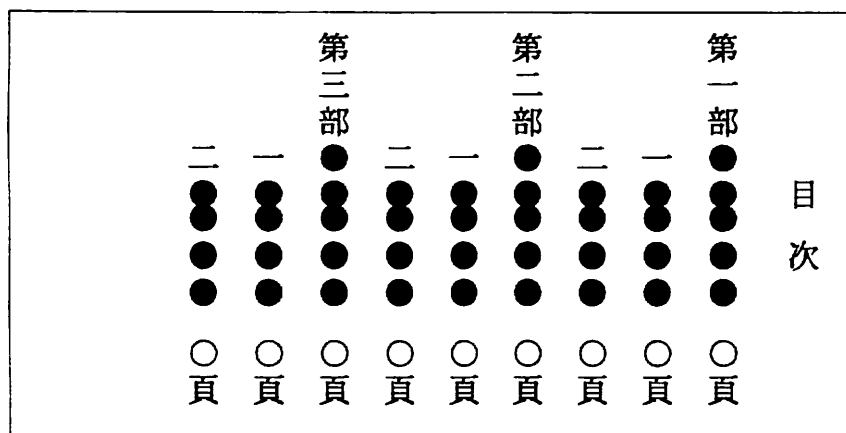
もし、項目に番号を付けないと、図3のような目次の形式と区別が付きません。逆に、このような図3のような目次をそのまま読むと、今度は、最初にあげた(b)の目次との区別が付きません。

【図3】



この目次を(b)の目次と区別するには、以下のような番号を付けて読めばわかります。もちろん、第○節と付けることもありますし、「第○部」をやめて、「1、1ノ1」などと読むこともあります。

【図4】



今回は、目次の種類によって区別を付けることを取り上げましたが、本によっては、さらに配慮しなくてはならないケースは多々あります。次回、もう少し目次の問題を取り上げます。

つづく

先月の練習問題について

【練習問題1】

・・・ところでハエが飛ぶときにはブーンという翅音をたて、五月蠅と書かせているほどうるさいことから、けっこう騒音になる。・・・

八木 寛 著『エンジニアの昆虫学』

「五月蠅」は、送りがなの「い」があれば「うるさい」と読みます。著者は「うるさい」という言葉に「五月蠅」という字が使われるほどうるさいと言いたいわけですから、補足をするとしたら、それをいい添える必要があるでしょう。

例「・・・翅音をたて、五月バエと書かせるほどうるさいことから、けっこう騒音になる。(音声訳者注)「五月蠅は、送りがなの「い」を付けて「うるさい」と読みます。(注おわり)・・・」

例「・・・翅音をたて、うるさい、ヲ、五月バエ(ハエ)と書かせるほど・・・」

【練習問題2】

例文は、67号を参照して下さい。

○「佐」を読むとき「佐藤のサ」と言い添えるとよりはっきりします。「藤」を「フジ」と読むと、佐藤の「トウ」と結びつきません。

○「苗字」と「名字」の補足は、「・・・登場させていただく。」の後で、「音声訳者注、最初の苗字のミョウはナエ、後の名字のミョウはなまえのナ、注おわり」以下、区別が必要な時は、「ナエの方の苗字」とか、「ナマエの方の名字」といい添える。

○「・・・「一所」に「命」を懸ける・・・」で、「イッショ」だけでは、「一緒に命を懸ける」ともとれます。「・・・イッショ、ヒトツトコロ、ニ「命」を懸ける・・・」とすべきでしょう。また、一所(一生)懸命は、「イッショケンメイ、イッショウケンメイは、・・・」

正誤表から・・・(42)

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
嘲られ	アナドられ	アザケられ	迂遠	カンエン	ウエン
生来	ショウライ	セイライ	過客	カキヤク	カカク
略々	リャクヤク	ホボ	登用	トヨウ	トウヨウ
相好	ソウコウ	ソウゴウ	口吟	コウギン	クギン

通りの読みがあつて意味が異なるもの・・・(29)

雪山	ユキヤマ、セツサン 雪の積もった山 セツサン、セツセン ヒマヤノ異称	出家	デイ 分家 シュツカ 家ヲテ仏門ニ入ルコト
大切	タイセツ ダイセイリ 杖、唐丸の一種	上代	ジョウグアイ ショウクニ事故アル時代理 ヲトメル者 ジョウグアイ おおむかし、太古
側目	ソバメ カタワラメ、ワキノ方ヲ見ルコト ソクモク 目ヲソバダテルコト、注意シテヨ ク見ルコト	剽軽	ヒョウケイ 浅ハカテ軽ハズミナコト、スバヤ ク身軽ナコト。 ヒョウキン 気軽明朗テアツテ滑稽ナコト

きれいに録音する為に (第9回)

環境音を減らす その2



前回、「適切な録音レベルを確保して、かつマイクのボリュームを絞れば、外部の雑音は小さくすることができます。」と書きましたが、このことについて少し説明します。

マイクと口との距離は非常に重要な問題です。距離の変化によって音質も変化し、まわりの雑音も変化します。よく「スタジオで録音する時は、30センチ前後、家庭では20センチ前後で」などと言いますが、これはスタジオと家庭とでは録音する条件が違うからです。外部の音が入らないスタジオと生活音や反射音(反響音)が入りやすい家庭とでは条件が違うので、これを少しでもカバーする為に、家庭録音の場合は20センチ前後でと指導しています。

マイクと口との距離が短くなると、音量は二乗倍で反比例します。つまり距離が半分になれば、音量は4倍になるわけです。仮に40センチの距離で録音していた人が、20センチで録音すると音量は4倍になりますから、ボリュ

ウムをかなり絞ることが出来ます。ボリュームを絞る事ができれば、逆にまわりの雑音は今までより小さく録音されることとなります。マイクを近づけると、まわりの生活音ばかりでなく、機械を操作する時にできる操作音や反響音も小さくすることが出来ますが、反響音を完全に減らすことはできません。これを少しでも減らすには、まわりの音を反射するものをできるだけ柔らかいもので覆い、音を吸収させることが必要です。

洋間などで録音される方は、まわりが反射しやすいものが多いので、どうしてもお風呂場で読むような反響音が録音されてしまいます。反響音が大きいと、どうしても言葉がはっきりせず聞きづらいテープになります。カーテンを閉めるとか、まわりに座布団を置くとか、床が堅いものであれば柔らかいものを敷くとか、などの対策をする必要があります。マイクの前、三方に柔らかいもの（座布団でもかまわない）を立てれば、それだけでもかなり音を吸収し反響音を減らすことができます。

また、マイクの距離が変化すると音質も変わると書きましたが、40センチの距離で録音した時の声と、20センチの距離で録音した時の声は、明らかに違ってきます。音質は、距離が近づくにしたがって、低音が強調されソフトな感じになってきますが、逆に遠くなるにしたがって高音が強調され堅い感じの声になります。同じ場所で録音しているのに、訂正した所の音質が違ったりするのはマイクの角度や距離が変わっていることが原因です。

マイクの角度は、正面が一番シャープに録音され、角度が変わるほど音質は鈍くなります。口の中の音を目立たなくさせる為にマイクの角度を変える事もありますが、普通は正面になるようにセットします。

生活音や反響音を出来るだけ小さくするには、①窓などは閉め外の音を遮断します。②できるだけ部屋は音を吸収するものをまわりに置きます。③マイクとの距離を慎重に決めます。近すぎると、マイクに息が掛かって雑音を発声させたり、口の中の音が録音されたり、声が揺れたりするなどの問題もおきてきますので、個別に調整する必要があります。マイクの距離などを調整する時は、マイクとの距離を言いいながら録音し、あとで聞き比べるとよいでしょう。再生して聞く時はできるだけ反響音のでない部屋で聞くことが大切です。

次回は、機械の操作音などの問題を考えます。

リクエスト図書一覧

以下のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。
グループの方で引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。
録音技術のケアはさせていただきます。

『私の可愛いクリスちゃん』*手書きノート
『日月神示神一厘のシナリオ』 <超心理学>



引き受けて頂いた原本	グループ
『零戦の運命』<軍事>	えくてもあ
『ハブ・バラエティー 育てる・味わう・彩る』<園芸>	えくてもあ
『先生 その姿と言葉』<教育>	えくてもあ
『南風 九号卒業45周年記念』<文集>	えくてもあ
『ビワの葉療法の手紙』神谷富雄著<医学>	テプライブラリーにしのみや
『COOK BOOK』シャープ<電子調理器説明書>	テプライブラリーにしのみや
『株入門の入門「るいとう」から信用取引まで』	テプライブラリーにしのみや
『天使の自立 上』<小説>	みなわ
『天使の自立 下』<小説>	みなわ
『日月神示』中矢伸一著 <歴史>	いずみ
『神道の成立』高取正男著<宗教>	ICCBリクエストチーム

勉強会のご案内

勉強会16回ボランティア研修会

日時：12月8日(木)午前10時～午後3時
場所：奈良県視覚障害者福祉センター
奈良県橿原市大久保町320-11

内容：

午前 講演 「視覚障害者と情報」
講師 田尻 彰 氏(京都ライトハウス副代表)

午後 分科1

「点字の共同製作の可能性をさぐる」
講師：岩井和彦 氏(奈良県視覚障害者福祉センター)

分科2 最近の音訳事情

講師：伊賀かおる 氏(神戸市立点字図書館)

* 参加者資格は、各館の推薦ボランティアです。

音声訳研修の会

日時：11月25日(金)1時半より3時半

場所：盲人情報文化センター 9階ホール

内容：さまざまな文章の音訳研究